

# バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

## Interview ①

ペプチドリーム株式会社 研究開発部プログラムリーダー

柳田 勇人



出身大学・卒業年度：大阪大学 生命機能研究科 2010年 博士過程修了

博士論文タイトル：再構成無細胞翻訳系を用いたリボソームディスプレイ法によるタンパク質試験管内進化

### 「現在の仕事について」

#### ◆担当職務

ペプチド医薬品の研究開発

#### ◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

2010年12月～2015年3月 イスラエル ワイツマン研究所においてポスドク

**仕事内容：**大学院時代から続けてきたタンパク質工学・進化の研究を発展させるため、この分野で最先端の研究を行っているワイツマン研究所 Dan Tawfik 研究室でポスドクとして働きました。酵母における代謝酵素の局在化に関する研究で、タンパク質翻訳エラーが新しい局在化の起源となっているという、タンパク質機能進化の重要なメカニズムを明らかにしました。

**やりがい：**世界中から優秀な研究者たちが多く集まる環境で切磋琢磨しながら研究を行うことができました。また、5年間の異文化での生活を通して多様な考え方を吸収し、少々のことでは動じない忍耐力や柔軟性が身につく、これが今の仕事に大きく役立っています。

#### ◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

次世代医薬品として大きな可能性を秘めている特殊ペプチドに注目し、最新の分子選択技術を用いて創薬研究を行っています。会社には、将来製薬業界におけるゲームチェンジを起こすというベンチャー精神があり、その気概を持って仕事ができます。また世界中の大手製薬会社と共同研究しており、自分が主体的に関わることができる点も魅力です。

#### ◆現在の就職を決めた理由

事業内容がこれまで学んできたタンパク質工学・進化に関する知識や技術に直接関連しており、実際に自分が貢献できると感じたため。ペプチド創薬というまだ新しい分野において、大企業ではなくこれから変化成長が期待できる環境で働くことができると考えたためです。

#### ◆将来設計（描けるキャリアパス）

このまま会社が世界の創薬研究ネットワークのハブとなったとき自分がその中心として活躍できる人材になっていければと思います。

#### ◆挑戦したいと思っていること

現在は海外提携先との共同研究のプログラムリーダーとして働いているので、将来的にはその経験を活かして自社による創薬プログラムの立ち上げにも関わられたいと思います。

#### ◆社会人として一番感動したこと

初めて自分が行った実験によって見いだされたペプチドが医薬品候補のリード化合物として認定されたこと。

#### ◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

入社当時はアカデミックと企業の研究方針との違いに戸惑うこともありましたが、今の会社では最終的に新しい薬を創るという目的がはっきりしているため、自分の興味、やる気を徐々にそちらへシフトすることができ解決できました。

#### ◆仕事のプロになるコツ

企業で働き始めてまだ2年ほどしか経っていませんが、与えられた仕事をただこなすだけでなく、自分だったらさらに何ができるのか常に自分の頭でも考えるようにしています。こうした自分の考えをいつも表明することで周りの考えも引き出せ、これらを議論し共有することでよりよい仕事につながると信じています。

#### ◆博士力、どこで発揮していますか？

研究はうまくいかないことがほとんどなので、色々な可能性を常に想定し、新しいことを発想し続けること、そしてうまくいかないときもあきらめない忍耐力、そしてポジティブ思考（これがとても大事！）は博士時代に培われたと思います。

## 「人生について」

### ◆何のために働くのですか？

自分が生かされているこの社会に貢献し、充実した人生を送るため。

### ◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

楽しく豊かな人生を送るため、その動機付けだと思います。

### ◆ワークライフバランスで工夫していること

オンとオフのメリハリをつける。オフは何か新しい体験をするなどの努力をし、仕事を忘れて思い切り楽しんで頭をリフレッシュする。

### ◆現在の夢

昔から旅するのが好きだったので、桃源郷とも言われるフンザに行ってみたい。

### ◆将来の展望

海外でポスドクとして働いた経験が今でも大きな糧となっているので、また機会があればいつかどこか他の国で生活してみたいと思います。

## 「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること  
国際経験や英語の勉強をして、さまざまなバックグラウンドを持つ人ともっと触れ合う機会があればよかったと思います。

### ◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

はっきりとした将来のビジョンをもつことができる人は幸運だと思います。そうでない人は、たまに立ち止まって自問自答する時間を持つことは大切だと思います。そして、たとえうまくいかなくても何が起るか分からない状況を楽しめる余裕が持てればよいと思います。

連絡先 E-mail: otayah.y@gmail.com

## Interview ②

独立行政法人製品評価技術基盤機構 バイオテクノロジーセンター  
計画課戦略企画室（主査）

市川 夏子

出身大学 : 千葉大学医学薬学府 論文博士（医学）

博士論文タイトル：放線菌のゲノム配列からの二次代謝産物合成遺伝子クラスターの発見と比較



## 「現在の仕事について」

### ◆担当職務

戦略企画室でバイオ関連の新しい制度の企画とセンター全体の広報を担当しています。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容  
最初は微生物のゲノム解析プロジェクトに関わり、遺伝子のアノテーションを担当していました。その後、ゲノムデータベースの構築や、特定の機能を持つ遺伝子のデータベース開発を行っていました。2014年から現在の部署に異動し、企画・広報を担当しています。

### ◆そこでのやりがい

微生物の遺伝子に一つひとつアノテーションをつけていく中で、その微生物の個性のようなものが見えてきます。数も多く、均一な基準で判断していくことに難しさもありますが、生物そのものを理解していくようでとても楽しかったです。

新しいデータベースの開発は、コンセプトから企画を始

めて、どのような機能を持たせるか、内容やページ構成などアノテーターの方、プログラマーの方と話し合いながら開発していきます。時間も手間もかかりますが、皆でデータベースを作り上げ、それが製品評価技術基盤機構（NITE: National Institute of Technology and Evaluation）の顔の一つになっていくことに達成感があります。

### ◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

NITE バイオセンターは微生物の保存と分譲を行う組織です。微生物の用途は多岐にわたるため、さまざまな業界の方とお話する機会があるのが魅力です。

### ◆現在の就職を決めた理由

実は博士課程中退から就職までの間に妊娠・出産しています。乳児がいながらの就職活動、官庁訪問の中で、唯一と言っていいほど難色を示さず温かく迎えてくれたのがこの組織でした。働きやすい組織の雰囲気と、自分もこの組織に貢献して恩返しできればと思い、就職を決めました。

### ◆将来設計（描けるキャリアパス）

正直迷っています。

企画部署3年目で、企画の進め方なども分かってきて組織の動きを目の当たりにすることが面白くなってきたところですが、現場で具体的な成果を出していく日々に戻りたいという思いもあります。また、組織全体をみて職員みんながモチベーションを持って働けるようなお手伝いもできたらいいなという思いもあります。

### ◆挑戦したいと思っていること

先にも書きましたが、組織に働く一人一人がモチベーションを保ちつつ、研鑽することがとても大事だと思っています。人事の研修や人材育成にも挑戦してみたいです。

### ◆社会人として一番感動したこと

自分の開発したデータベースが公開され、インターネットからアクセスできるようになった時です。

### ◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

アノテーション業務数年目で、アノテーションチームのリーダーを任された時です。数人のアノテーターさんと微生物の約5000個の遺伝子のアノテーションをつけるのですが、進捗を管理したり、基準のばらつきを調整したりしました。限られた期間の中で、ミスをせず、効率よく進める方法を考え、知恵を絞りました。またそのうえでチームの皆さんとの話し合いや協力して進めていくことの大切さを学びました。

### ◆仕事のプロになるコツ

自分の頭で考え、周りの人とよく話し合っていくことだと考えています。また、広い視野を持ちさまざまなところから情報収集をすることも大切です。

### ◆博士力、どこで発揮していますか？

報告書や提言書を執筆する時や議論を主導していく際の論理力は研究室で培われたものだと思います。また、説明資料を作成する時の構成力、プレゼンする時の発信力も学会参加などで鍛えられました。

## 「人生について」

### ◆何のために働くのですか？

メジャーな組織ではありませんが、社会の一隅で自分が役に立てることが励みになります。

### ◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

自分の人生のため

### ◆ワークライフバランスで工夫していること

できるだけ家には仕事を持ち帰らないようにしています。また、気持ち的にあまり思い詰めたり深刻になりすぎたりしないようにしています。

### ◆現在の夢

微生物の提供・入手に関する新しい仕組みを企画しています。新しい取組を実現させるのが夢です。

### ◆将来の展望

新しいことにチャレンジするのが好きなので、組織として新しい取組を企画し、実現していきたいです。

## 「後輩へ」

### ◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること

もっと色々なバックグラウンドの人とコミュニケーションすること。学生時代は自分の研究分野だけで視野が狭かったと反省しています。今はSNSなどで交流ができるので、もっと広範囲にコミュニケーションできるとよいと思います。

### ◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

チャレンジすること、自分で調べて、自分の頭で考えること、自分でやってみることが大切です。社会人になると正解が上から与えられることは少ないです。自分で勉強して自分の意見を持つことが判断の助けになると思います。

---

連絡先 E-mail: [ichikawa-natsuko@nite.go.jp](mailto:ichikawa-natsuko@nite.go.jp)